

市民まるごと赤い電車応援団が 結成されました

企画広報課 ☎66♦1162



依然として厳しい路線の現実

昭和11年の開通以来、「地域の足」として公共交通を支えてきた名鉄西尾・蒲郡線。しかし、名古屋鉄道株式会社はこの路線の運営は、たいへん厳しい状況を迎えています。

この区間の平成20年度の輸送人員は約299万人、平成10年度の約342万人から10年間でおよそ43万人減少しています。また、この区間の収支は、平成18年度に約6億7千

300万円の赤字を計上、平成20年度には約8億7千400万円の赤字となりました。

この状況を改善するため、平成18年4月に名古屋鉄道株式会社と沿線にある西尾市、蒲郡市、吉良町、幡豆町の2市2町で「名鉄西尾・蒲郡線対策協議会」を設立し、これまでに6回協議の場を設けました。今年1月に開催された4回目の対策協議会では、名古屋鉄道株式会社からの「一事業者だけの運営ではもう限界である。今年度末までに、方向性を示してほしい」といった提示に対し、沿線2市2町は、「三河地方南部の広域ネットワークを構成する重要な路線であり、高校生や高齢者などの地域住民にとって欠かすことのできない路線である」と回答しました。

その後も名古屋鉄道株式会社に対し、公共交通機関として一層の経営努力をお願いするとともに、国・県の参加のもと路線存続に向けた協議を継続しています。

■名鉄西尾・蒲郡線の利用者の推移

